

山形市に地元産 手作り花笠贈る

製作者ら

山形市の夏の風物詩・山形花笠まつりで使う花笠の製作者らが4日、市に花笠3個を贈った。今年のまつりは新型コロナウイルスの影響で中止となったが、関

係者は市内産のスゲを使った手作り笠に来年のまつりへの思いを込めた。

花笠を製作しているのは市シルバー人材センター女性部。花笠の多くが市外で作られている中、地元産を確保しようと市の支援を受け、鈴川認定農業者の会が栽培するスゲを原材料に2

014年から取り組む。16年以降はまつり開幕前日の8月4日に蔵王大権現に花笠を奉納しているが、今年



奉納の代わりに市に贈呈

この日は女性部の塩野美智子部会長と安達つや子副部会長、鈴川認定農業者の会で中心となってスゲ栽培に取り組む深瀬嘉明さんが市役所を訪れ、佐藤孝弘市長、県花笠協議会の矢野秀弥会長、鈴木隆一副会長に笠を手渡した。塩野部会長は「毎年苦勞しているが楽しく作っている」と話し、佐藤市長は「コロナを乗り越って来年には2倍楽しく踊れば」と語った。

花笠を贈った(左から)深瀬嘉明さん、安達つや子副部会長、塩野美智子部会長ら
山形市役所

贈られた花笠は、同協議会が山形まなび館と霞城セントラルで16日まで開催している花笠まつりの写真展で展示する。(手塚秀雄)